

信州報

第42号
2005年 1月
編集発行
信州大学人文学部同窓会
0263-37-2293

法人化した信州大学

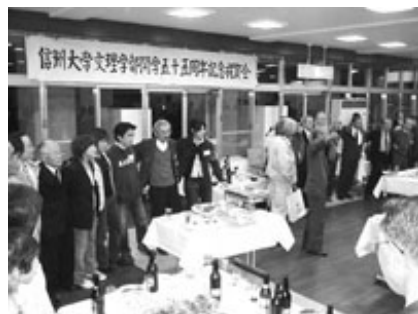


信州大学長 小宮山 淳

人文学部同窓会の皆さまには、温かなご指導とご支援を頂戴しており、まずは心よりお礼を申し上げます。
周知のように、信州大学は平成十六年度から、国立大学法人として新たな出発をいたしました。大学運営など、これまで以上に自己責任が問われます。大学は、真に学生のための教育を行い、先進的で多様な研究推進のもとに、国際的な競争力を持ち、教育研究成果を社会に還元しなくてはなりません。信州大学が誇るパワーをもってすれば、必ずや質の高い個性的な教育、研究、社会貢献ができるはずです。社会や学問の進歩変容に的確に対応しつつ、創意工夫と努力を重ねていくつもりです。
教育では、「知識基盤社会」を担う優れた人材を育成します。豊かな教養と人間性を備え、多面的な視点をもった自立型

人材です。近年、中央教育審議会をはじめ各界から、その基盤となる教養教育の重要性が指摘されています。信州大学では、教養教育充実の観点から現共通教育を見直し、その在り方を鋭意検討してきました。そして平成十八年度に、共通教育の核となる教員四十名規模の新機構を構築することになりました。カリキュラムも大幅に改定します。同窓会の皆さまにも、この改革をご理解のうえ、格別なるご支援をお願いいたします。
昨年、文部科学省「教育支援プログラム（教育G.P）」に二つ採択されました。「eラーニング」と「環境マインドの育成」に関する教育プログラムです。eラーニングは、すでに全学的に導入され、その整備充実に向けて作業が急ピッチで進んでいます。環境マインドの育成は、信州大学の個性的な教育プログラムの一つとして、これも全学的に展開しつつあります。学生主体にエコキャンパスづくりをし、環境実務教育を実践します。環境内部監査員の養成セミナーには、人文学部学生も意欲的に参加しており、心強いかぎりです。

大学は、先端的かつ独創的な知の創造、新技術の開発を担わなくてはなりません。信州大学は、最先端の研究成果を絶え間なく発信してきました。そして本年四月には、法科大学院と大学院総合工学系研究科（博士課程）が新設されます。法科大学院は、信州の法曹過疎を解消し、企業経営に明るく、科学技術に強い法曹人の育成を目指しており、地域の熱い期待を感じます。総合工学系研究科は、理学・工学・繊維学分野を基盤とする工学系研究科に、農学分野を融合した、全国に例のない研究科です。個性的な教育研究が待たれます。これらに続く独立大学院や専門職大学院の計画もあり、早期に達成したいものです。信州大学が従来にも増して、卓越した研究成果を世界に発信し、高度専門職業人を輩出して、いくことを願ってやみません。



を發揮してきました。人文学部関連では、穂高町との連携「NPO信州・大学地域連携プロジェクト」などがよくマスコミにも登場します。これらは、大学の蓄積された知を現実の問題解決に活かし、また地域にとっては大学の知的財産、学生の若々しい発想や感性を活用する事業といえます。人文学部を中心とした飯山市との交流の成果は、地域はもとより学生教育や研究の面からも計り知れません。この貴重な実績を元に昨年、「信州大学と飯山市との連携協定」が結ばれました。市民開放授業や国際交流における精力的な活動も特記されます。大学の知にたいする社会の期待は、急速に高まりつつあります。地域産業の創出と活性化、地域文化の保存と創造、生涯学習の推進、地域問題の解決、環境保全などに、より積極的に参画していくつもりです。
大学にとって、同窓会の存在が一段と大きくなってきました。同窓会は、強力なサポーターであり、ステークホルダーでもあります。教育や就職活動における温かなサポート、大学運営への適切なアドバイスなど、大学の任務遂行上いかに有用であるかは言を俟ちません。法人化にあたって策定した中期計画にも、同窓会との強固な連携を掲げたところ。信州大学では従来、東京同窓会を除いては、各学部などを母体とした同窓会がそれぞれ活動を展開されてきました。幸いなことに、関係者のご努力によって、平成十六年に「信州大学同窓会連合会」が設立されました。信州大学の

第二六回総会のご案内

本年度の総会を次の日程で開催します。総会終了後に懇親会を予定しております。お誘い合わせの上ぜひご出席下さい。

日時 平成一七年二月二〇日
正午より

会場 「うつくし荘」
(松本市美ヶ原温泉)

電話 〇二六三-三三二-五五四四

議題

一 二〇〇三年度事業報告・

決算報告

一 二〇〇四年度事業計画・

予算案審議

一 その他

連絡先 〇二六三-三三二-二二九三
(同窓会事務局)

全同窓会が密接に連携した組織です。昨年九月にその規約が制定され、十一月に役員が選出されました。代表の窪田貞喜氏(医学部松医会長)、副代表の鈴木崇夫氏(人文学部同窓会理事)、柳沢武三郎氏(工学部同窓会理事長)を中心に、これから具体的な活動方針など検討されるものと存じます。この紙面をお借りして、同窓会連合会の設立に改めて深甚なる謝意を表します。
法人化した信州大学、その最近の動向や決意の一端を紹介させていただきます。人文学部同窓会の皆さまには、一層のご指導とお力添えをお願い申し上げます。
(平成十七年一月十二日)

「信州大学同窓会連合会」報告

大学の法人化に伴い、開かれた大学を目指すとともに、大学の学問・研究を広範囲から支えてほしいという大学側の要請から、昨年四月に発足した「同窓会連合会」だが、具体的な在り方は何も決まっていなかった。

そこで、昨年十一月に連合会の役員会が開かれ、以下の三点が確認された。

- 一、各学部の同窓会は「連合会」の下部組織ではなく、独自に活動していく。
- 二、「連合会」は大学と深く関わりながらも、大学から独立した組織として活動する。
- 三、「連合会」の代表は医学部同窓会の窪田貞喜氏とする。



副代表は在松と遠隔、実学と一般教養という観点から、文学部同窓会と工学部同窓会から出す。

四、大学との絆を維持するために役員会に藤澤副学長にも参加していただく。

五、事務局は当面、大学本部の総務課にお願いする。

具体的な活動としては、各同窓会の行事を相互に支援すること、大学としての式典等に協力していくこと、などが考えられるが、金銭的基盤もな

いままにきちんと決めることはできないので、随時検討しながら対応し、最終的に輪郭が固まればよいのではないかと

いう雰囲気だった。

いずれにせよ、活動するためには資金が必要であり、この徴収方法については次回の役員会で検討することとした。

(鈴木)

信州大学同窓会 連合会役員名簿

教育学部同窓会 三寺 勝美
経済学部同窓会 伊東 一雄
理学部同窓会 森 淳
文学部同窓会 北澤 千和

(名称)

第1条 この会は、信州大学同窓会連合会(以下「本会」という。)と称する。

(構成)

第2条 本会は、信州大学の次の各号に掲げる同窓会(以下「各同窓会」という。)で構成する。

- 一 人文学部同窓会
- 二 教育学部同窓会
- 三 経済学部同窓会
- 四 理学部同窓会
- 五 文学部同窓会
- 六 医学部同窓会
- 七 工学部同窓会
- 八 農学部同窓会
- 九 繊維学部同窓会
- 十 医学部保健学科同窓会

(目的)

第3条 本会は、各同窓会の主体性を尊重しつつ、各同窓会相互の交流及び親睦を図るとともに、信州大学との密接な連携により、信州大学及び各同窓会の発展に寄与し、併せて社会に貢献することを目的とする。

(役員会)

第4条 本会に、役員会を置き、各同窓会から選出された者各1人の役員をもって構成する。

- 2 役員会に代表及び副代表を置き、役員互選による。
- 3 役員会は、代表が招集し、その議長となる。
- 4 役員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 本会の基本的な活動方針等に関する事項
- 二 各同窓会等から提出された議案に関する事項
- 三 役員選出に関する事項
- 四 規約の改廃に関する事項
- 五 その他本会の運営に関する重要事項

(事務局)

第5条 本会の事務局を信州大学旭キャンパス内に置く。

(雑則)

第6条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、役員会の議を経て、別に定める。

附 則

この規約は、平成16年9月1日から施行する。

信州大学東京同窓会 開催される

信州大学同窓会連合会は、大学からの要請で発足したが、自然発生的に開催されるようになった学部横断の同窓会もある。それが「信州大学東京同窓会」だ。いつから始まったのか定かではないが、文学部部の卒業生が中心となっ

て東京在住の同窓生諸氏に広めていったようである。

その東京同窓会、今年は二月五日(土)に千代田区のアルカディア市ヶ谷で開催される。

工学部の遠藤守信教授による記念講演、小宮山淳学長の現況報告の後、懇親会が予定されている。毎年学部横断で旧交を温め合っているとのこと。

今回の参加申し込みは昨年中に締め切られているようなので、これからという訳にはい

かないのが残念である。しかし、この東京同窓会は毎年二月の第一土曜日に開催することに

しているという。東京近郊の方は来年を楽しみにされてはどうだろうか。

ちなみに、幹事は各学部から

出ているが、人文学部の代表幹事は五回生の中田茂氏(20年入学・哲学)である。



近くて遠い国 国際親善交流に参加して

同窓会副会長 桜井 政男

十月末の一週間、人文学部国際交流委員会の主催する韓国言語文化研修に参加しました。日本語教育学分野の学生十九名と大学指導教官と事務官、それに同窓会からの私を含め二十四名の研修団でした。一年置きに行われてきたこの研修は今回四回目を迎え、今年(〇五年)の八月五日から交流相手校、カトリック大学の学生が松本に来ることになっています。

信州大学と同じ程度の規模をもつ韓国カトリック大学は、ソウル市内に医学部と神学部の二つのキャンパスがあり、富川市に人文学部を担当するキャンパスがあります。私達は富川市のキャンパスで日本



写真①

語日本文化専攻の学生・職員たちと交流をもちました。到着したその夜から歓迎交流会が始まり、翌日はキャンパス見学から副総長表敬訪問、発表会、日本語スピーチコンテスト、韓国語講座などがあり、忙しい毎日でした。来年開学百五十周年を迎えるというキャンパスは建物もりっぱで、紅葉が美しく起伏に富んでいます。特に図書館や学生食堂が充実しており、学生たちはホールなどに夜遅くまで残って活動しています。(写真①)

学生たちが学ぶ意欲にあふれていることを随所で感じさせられました。特に日本語スピーチコンテストには感服しました。日本語をマスターしていることだけでなく、スピーチの内容が教育問題、国際問題などに及び、真剣に世界に向かって問題意識を投げかけているからです。最終日には、舞台発表を披露してくれましたが、日本の民話「こぶとり爺さん」は、日本で文化祭の舞台を観ているような気持ちになるほど見事な出来映えでした。そうした研修の合間には、市内見学や観光地、買い物にも出掛けました。印象に残ったのはソウル市内の昌徳宮、ソウルタワー、民俗村などでした。



写真③

その中でも、韓国へ来ていることを一番強く感じたのは、統一展望台です。パンフレット(写真②)に見られるように、イムジン川を挟んで向こう側は北朝鮮です。漢江との合流点の一番川幅が広い場所所で三キロメートル、最も狭い所は四六〇メートルしかありません。これほどの近さにあり同じ民俗でありながら、両国の国民は自由に行き来できません。現代社会の矛盾と緊張を知らされた一瞬でした。近くて遠い国、といわれてきました。が、昨今の韓流ブームを引き合いに出すまでもなく、韓国は身近な親しみの沸く隣国です。その一つは、食文化にあるようです。学生達と幾晩か懇親会を楽しみました。(写真③)キムチに代表される韓国の料理は味付けが絶妙で、いつも沢山食べ過ぎ、飲み過ぎるのですが、不思議と燃焼

してしまい残らないのです。楽しい国際交流の一週間は瞬く間に過ぎてしまったのでした。(66年入学・イギリス文学)



10L生に告ぐ

再来年(07年)の八月第一土曜日に同級会を開きます。国文学の故東明雅先生の追悼集会が昨年八月に開かれました。池田美幸さん、勝山節子さん、長澤勇司君、村田治彦君、それから鈴木崇夫が出席しました。本当に久しぶりの再会で、思い出話に花が咲きました。そして、同級会を開かないかという話になりました。

いつ開こうかという話になった時、二年先輩の9L生は、三年に一回、八月の第一土曜日に開催すると決めて、人数の多寡にかかわらず必ず実行することにしているということに耳にしました。これは真似るべきだと意見が一致。ちょっと先輩に便乗するようで芸がないかもしれないが、9L生と同日開催とすることにしました。一次会の後に先輩方と再会できるチャンスもあるかもしれません。

幹事は松本周辺にいる人が当たることにしました。会場は

同窓会指定保養所の「うつくし荘」が有力候補(半額で宿泊できる)ですが、まだ交渉もしてありません。9L生の同級会と隣り合わせということもあるかもしれませんが、それもまた楽しかろうと考えています。

これから幹事を募って、計画を立てていきますが、随時この会報も利用してお知らせしていきます。今から予定を立てて、平成一九年の八月四日には松本に集合しましょう。余談ながら、10L生という通称はもうじき使えなくなりそうです。現在の在校生は、西暦を使って番号を振っている(今年の入学生は05L)からです。今後「十回生」としますので、ご承知おき下さい。

それから、住所不明者が何人もいます。同窓会事務局で掌握している名簿で連絡を取ります。会報が届いていない人をご存じでしたら、同窓会事務局まで連絡するように伝えてもらえたら幸甚です。

(鈴木)

今どきの生協事情

1. 食堂

生協と言ってもまず思い出すのは食堂。建物は三十年以上変わらないが、中は大変身していた。まずは、ホールが明るく広くなっている。ゆつたりとして四百席ある。窓際にはカウンターテーブルも用意されていて、独りの世界にも浸れる。柱や壁の腰板は、木曾産の檜を使用しているので、ほのかな香りも魅力的だ。その上、パーテーションやマイク設備などもあり、コンパやミーティングなど多目的利用が可能だ。実際、昨年度理学部同窓会はここで総会を開いたという。メニューにはどんな物があるかと、ショーケース(写真参照：用材は農学部の実習林のもの



を使用)を覗くと、これがまたすごい。定食やうどん類はもとより、丼物やパスタ類まで、メニューは八十種類にも上るといふ。それも、電磁調理器を導入したことで、どんな注文も待たせることなくすぐに暖めて出せるようになっている。さらには、健康志向の時代を示すかのようにサラダバーまで用意されていて、好きな野菜が量り売りで買える(百〇一〇円)ようになっている。カウンターに並ぶ学生たちに、先を急ぐ気配はさらさら無い。それどころか、取材中に人文学部長の大島先生まで、学生に混じって注文されているではないか。かつては三コマ目に間に合わないのではないかと人を押しつけてでも食堂に向かったのが嘘のようである。更に、恐ろしい(?)サービスまであるという。なんと学生はお金がなくても食べられるのだ。保護者は仕送り額のうち食費分を生協に直接振り込み、本人には食券が渡るといふシステムも用意されているというのだ。保護者に食の安心を提供するためのそうした心が、食費を削ってひもじい思いをしながらも、好きな本を買ったり、パチンコをしたり、という自分なりの世界を築いた(それが見てくれだけのものではあつたとしても)、かつて我々が味わった楽しみを知らないのかと思うと、今の学生がかわいそうにも思われた。

2. 大学ブランド

以前にも紹介したが、何と云ってもヒット商品は「信州大学饅頭」である。月二百のペーシングで買われ、入学式には二千五百箱、卒業時にも二千箱程度買われているという。開運堂との協同開発で、「北海道産極上エリモ小豆の自家製餡の漉し餡を、鶏卵と小麦粉、隠し味に沖縄産の黒糖を加えた生地で包み、『信大』の焼き印を一つ一つ押し上げて上げた開運堂の商品案内より)というもので、漉し餡が口の中でさらりと溶けて素朴な風味が広がる、お薦めの一品である。

もう一つのお薦め品は、「農学部産山ブドウわいん」である。実習上で取れた山ブドウを使用した無添加ワインのため、五百本程度の限定製品である(製造元は「五一わいん」の林



農産)。秋にしか手に入らないが、やや甘口の赤ワインで、濃いブドウの味がなんともたまらない。

「信州大学饅頭」も「農学部山ブドウわいん」も生協オリジナルのため、生協法で信大生協でしか買えない。開運堂でも林農産でも売っていない。これらの商品は子どもの入学証明()として立派なお土産になっているのだという。現在、生協では在校生の保護者宛に通信販売(秋限定)もしているそうだが、卒業生にも紹介したという。次号では注文方法も紹介できるだろう。

3. 学生支援

今までも入学後に生活上まらず頼るところは生協だったように覚えているが、最近は大いに代わって「新入生ピアサポート」(新入生何でも相談)の資金を提供しているという。今後、通販の売り上げも含め、収益の一部を基金として積み立て、奨学金に充てていく計画だという。ただ大学との関係で下記の一節を、大学と基金の位置づけなど

協議中のため、まだ詳細は決まっていないが、開かれた大学の名の下に、生協の利用も組合員に限定されなくなっているという。(以前から隣の美須々高校の生徒が昼食をとりに来ていたから、ずっと開かれていたと言えぬのだが...)同窓生諸氏にも、こんな方面から学部生を支援できるかもしれない。(鈴木)



訃報

早川昌夫様
 (73年入学・ドイツ文学)
 平成一六年一二月にご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

会費納入について

本会の予算規模は上記の決算書・予算案に記されているように一千万円弱です。しかし、新入生の入会借入金(入学時に納入してもらい、卒業時に正規の会費として処理する)も収支上に計上されているた

め、実質の運営は六百万円程度です。その内のおよそ六割が通常の活動費で、残りは周年事業や名簿発行のための積立金にしています。本会の収入は会員の皆さんに納入していただく会費以外ありません。現在には先に記したように入学時に終身会費を納入していただくよう働きかけ、毎年入学生数の七割前後の方が終身会員として同窓会に入会予約しています。一方、年会費を入金してくださる会員は六十人ほどに留まっております。つまり、新入会員の入金金および終身会費(計三万円)によって、本会が運営されている状態です。

2003年度決算報告

収入	項目	予算額	決算額	備考
繰越金	1,827,074	1,827,074		
会費	4,100,000	4,353,000	34回生まで借入金繰入(3,654,000円)	
仮受金	3,800,000	3,478,500		
その他	8,000	6,193		
合計	9,735,074	9,658,574		

支出	項目	予算額	決算額	備考
事務費				
備品費	50,000	94,500	プリンタ	
人件費	1,000,000	1,128,480	会計、アルバイト等謝金	
通信費	500,000	669,690	会報送付含む	
消耗品費	200,000	207,716	PC関係、印刷代、文具等	
旅費	30,000	43,500		
渉外費	20,000	4,305		
事務所費	600,000	600,000		
雑費	30,000	25,530	払込手数料等	
小計	2,450,000	2,775,721		

会議費	項目	予算額	決算額	備考
総会費	50,000	42,508		
役員会費	50,000	36,385		
委員会費	30,000	30,000	編集委員会	
小計	130,000	108,893		

事業費	項目	予算額	決算額	備考
会報費	300,000	258,090	No.39,40	
人会記念費	400,000	423,850		
字留後援費	300,000	300,000		
補助費	200,000	96,000		
慶弔費	100,000	22,630	退官記念品、卒業祝賀会等	
小計	1,300,000	1,102,570		

その他	項目	予算額	決算額	備考
積立金	200,000	200,000		
別途積立金	3,800,000	3,478,500		
基本会費	500,000	500,000		
予備費	100,000	100,000		
次年度繰越	1,255,074	1,392,890		
小計	5,855,074	5,671,390		
合計	9,735,074	9,658,574		

2003年度決算報告(基本金)

項目	予算額	決算額	備考
基本金	20,500,000	20,500,000	
基本会費	500,000	500,000	
合計	21,000,000	21,000,000	

2004年度予算(案)

収入	項目	予算額	備考
繰越金	1,392,890		
会費	4,500,000	35回生まで借入金繰入(3,890,000円)	
仮受金	3,500,000		
その他	5,000		
合計	9,397,890		

支出	項目	予算額	備考
事務費			
備品費	150,000		
人件費	1,900,000		
通信費	600,000		
消耗品費	150,000		
旅費	50,000		
渉外費	10,000		
事務所費	600,000		
雑費	30,000		
小計	2,590,000		

会議費	項目	予算額	備考
総会費	50,000		
役員会費	50,000		
委員会費	30,000		
小計	130,000		

事業費	項目	予算額	備考
会報費	300,000		
人会記念費	400,000		
字留後援費	300,000		
補助費	200,000		
慶弔費	100,000		
小計	1,300,000		

その他	項目	予算額	備考
積立金	200,000		
別途積立金	3,500,000		
基本会費	500,000		
予備費	100,000		
次年度繰越	1,077,890		
小計	5,377,890		
合計	9,397,890		

2004年度予算(案)(基本金)

項目	予算額	備考
基本金	21,000,000	
基本会費	500,000	
合計	21,500,000	

編集後記

今号は編集期間が短く、学部生通信が間に合いませんでした。申し訳ありません。私の生協取材で代えさせていただきました。それから、三面に同級会通知を掲載させてもらいました。こんな会報の使い方もあります。学年・専攻・サークルなど、同窓生同士を結ぶ媒体として活用してください。また、字が小さくて読みにくいのご意見から、版を大きくしました。いかがでしょうか。

(鈴木崇夫)

会費をお支払いいただかなければならない方には、会報発行ごとに振替用紙をお送りさせていただきます。どうぞ、会費の納入にご協力をお願いいたします。

なお、納入に關しまして、既に入会金は支払い済みだが、毎年の振り込みは面倒だという方は、二万七千円を一括して納入(過去の会費は勘定に入れない。)していただければ、終身会員に切り替えさせていただきます。

また、既に何年も年会費を払っているという方は、三十回払い込んでいただいた段階で終身会員に切り替えさせていただきます。ことになりました。